

伊勢・三河湾貧酸素情報 (R2-1号)

令和2年6月5日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

はじめに

今年度も6月から10月まで、伊勢・三河湾の貧酸素水塊の発達状況について、現況と予測の情報を提供します。

データは、三重県水産研究所が「あさま」で実施する浅海定線調査、愛知県水産試験場が「海幸丸」、「へいわ」で実施する環境調査等の結果を利用し、月2、3回程度情報提供する予定です。

情報は速報値であるため、後日、補正等で修正される場合もありますので、ご承知おきください。

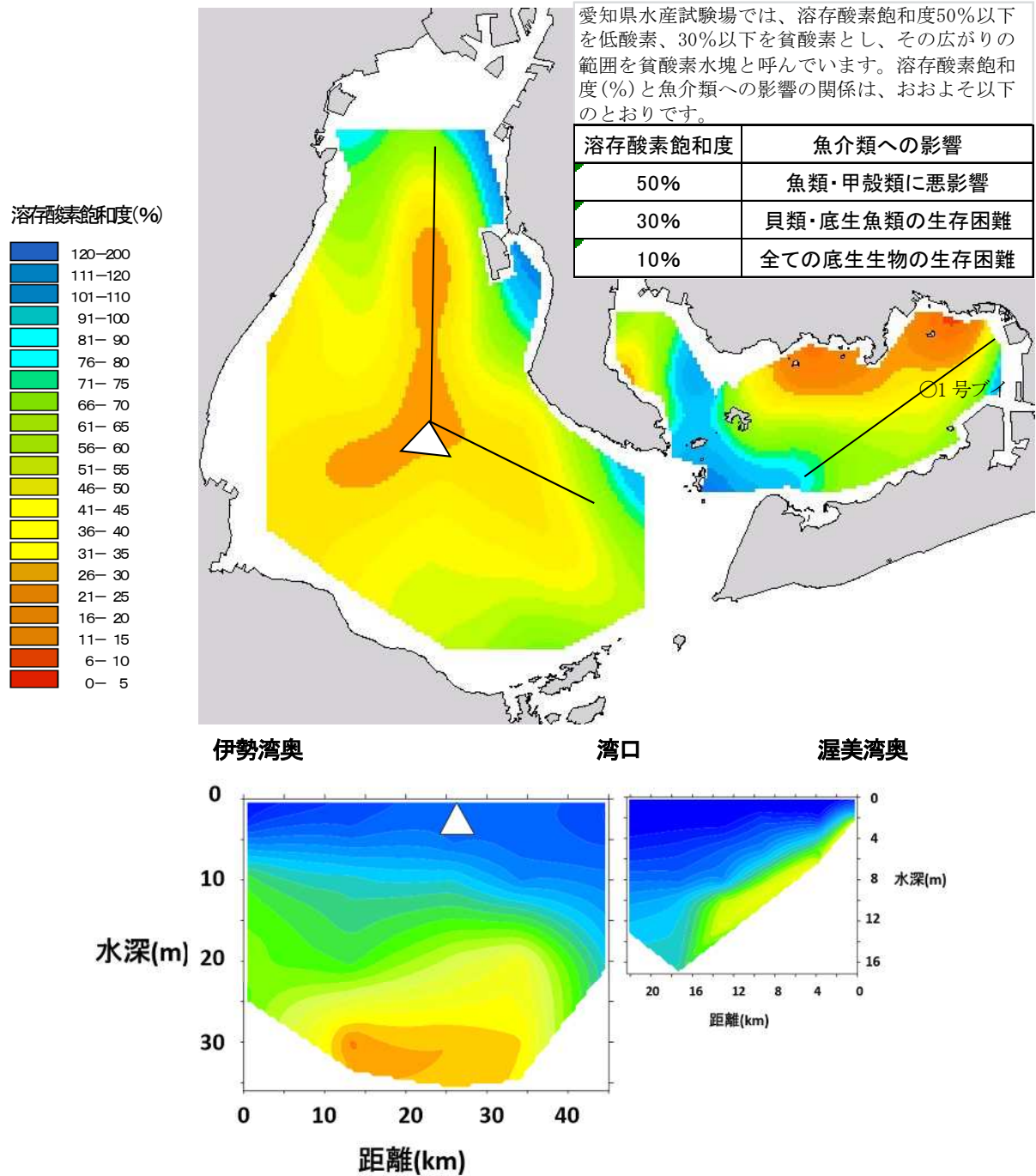


図1 伊勢湾(6月1、2日)・三河湾(6月2、3日)底層の溶存酸素飽和度の分布(上図)及び上図直線部分の鉛直分布(下図)(三重県「あさま」、愛知県「へいわ」調査)

伊勢湾

6月1、2日の調査結果を図1に示しました。伊勢湾の湾奥部、湾中央部で貧酸素水塊が確認されました。今後は梅雨に向けて、表層の水温上昇と塩分低下にともなう成層の発達により、下層で貧酸素水塊が拡大すると思われます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	20.4~24.4	21.2~32.2
底層	15.7~23.8	28.7~33.8

三河湾

6月2、3日の調査結果を図1に示しました。渥美湾では湾北部で、知多湾では美浜町沖で貧酸素水塊が確認されました。また三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ（蒲郡沖）のデータを見ると、海底上約3mの範囲で溶存酸素飽和度が50%以下で推移している様子が観測されています（図2）。

今後は梅雨に向けて、表層の水温上昇と塩分低下にともなう成層の発達により、下層で貧酸素水塊が拡大すると思われます。

なお、蒲郡地区では6月2日の夕方に苦潮が観測されました。三河港内に形成された貧酸素水塊が5m/sの南西風により湧昇したものと思われます。

表2 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	21.0~24.4	28.1~31.0
底層	17.6~20.4	31.8~33.2

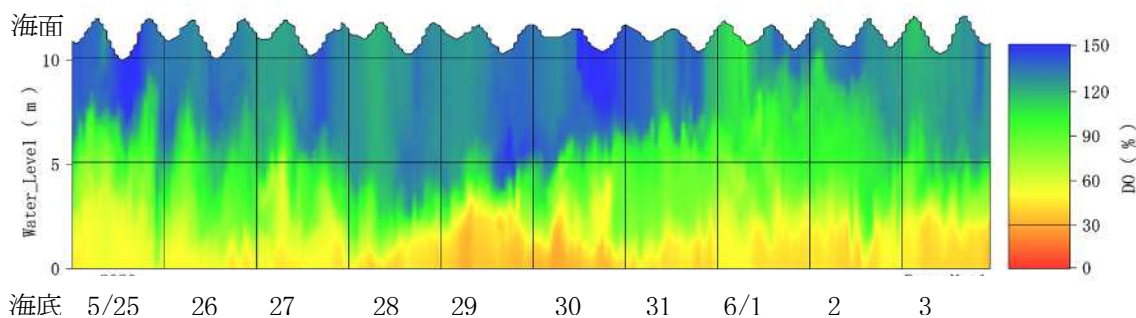


図2 溶存酸素飽和度（DO）の経時変化（三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ）

参考

前年同期の両湾底層の溶存酸素状況（図2）

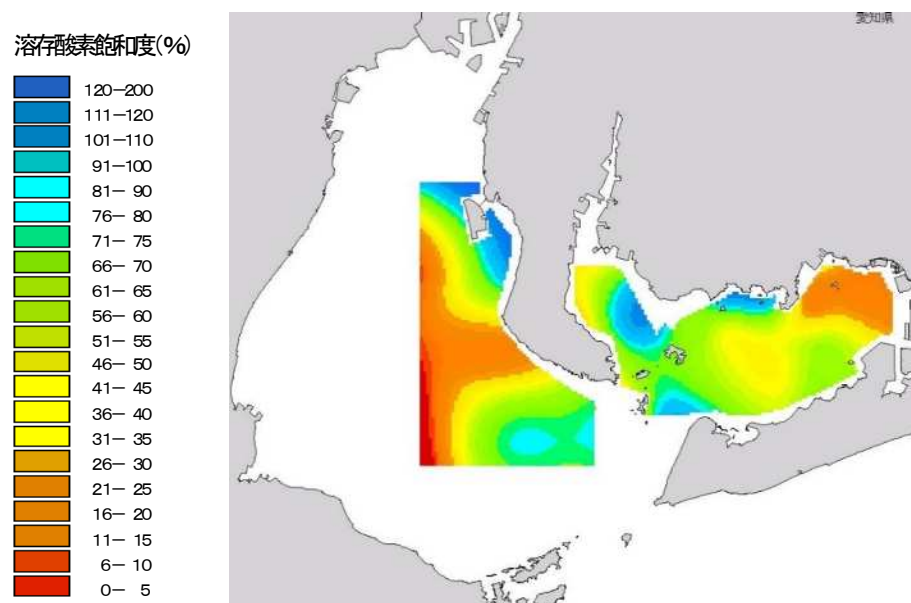


図3 令和元年6月3日（伊勢湾）、6月4、5日（三河湾）